

平成30年3月5日

伊達こども園保護者各位

社会福祉法人桑の実福祉会
伊達こども園長 早田 勝彦

伊達こども園の「自己評価」結果について

弥生の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととご推察申し上げます。

さて、標記の件につきましては「就学前の子どもに関する教育・保育等の総合的な提供の推進に関する法律」により、自己評価を実施し、公表することが努力義務として示されております。本園においても2月中に実施し、その結果がまとまりましたので、その概要を公表させていただきます。

今回の結果を踏まえ、更に向上していけるよう教育・保育の充実を目指して検討をしていきたいと思っておりますので、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

◇ 自己評価の内容

大きな項目は、下記の4項目です。それぞれの観点で、「A：たいへんよい、B：よい、C：検討を要する、D：改善を要する」の4段階で評価しました。

I 教育・保育の理念

- ・ 法人の理念、教育・保育理念を明文化しており法人と認定こども園の使命、役割を反映しているか。
 - ・ 理念や基本方針が職員に周知され、十分に理解されているか。
 - ・ 一人ひとりの子どもを尊重した教育・保育について共通理解がなされているか。
- 等、5の観点。

II 子どもの発達援助

- ・ 子どもの健康管理は、マニュアルや教育・保育計画などで全職員が共通理解し、子どもの健康状態に応じて適切に実施しているか。
 - ・ 食事を楽しむことができるよう適切な環境設定や工夫をしているか。
 - ・ 健康診断・歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し教育・保育に十分反映させているか。
 - ・ 子ども一人ひとりを受容した活動や保育教諭の援助が行われているか。
 - ・ 障がいのある子に対する教育・保育環境、内容・方法が十分考慮されているか。
 - ・ 子どもに関する記録管理について規定が定められ、適切に管理されているか。
- 等、23の観点。

III 保護者に対する支援

- ・ 食を通して、保護者が食育に関心を持てるような取り組みをしているか。
 - ・ 送迎の際の対話や連絡帳への記入など、日常的な情報交換に加え、別に機会を設けて相談や面談を行っているか。
 - ・ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場や共通理解を得るための機会を設けているか。
 - ・ 不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見や虐待の予防に努めているか。
- 等、9の観点。

IV 教育・保育を支える組織的基盤

- ・ 事故や災害発生時などにおける安全確保のための体制が整備され、機能しているか。
 - ・ アレルギーや慢性疾患を持つ子どもの情報を共有し、保護者と連携し適切に対応しているか。
 - ・ 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備しているか。
 - ・ 教育・保育の質の向上のために、研修計画や、人事考課が適切になされ、職員の教育・研修体制が整っているか。
 - ・ 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っているか。
- 等、14の観点。

◇ 自己評価結果の概要

項目	項目観点を平均した割合（% 小数点以下四捨五入）									
I 教育・保育の理念	A	25	B	53	C	18	D	1	無回答	3
※ 検討を要する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「保護者や地域への周知。」については、「A」が少ない評価であり、次年度更に努力する必要がある。その他に関しても無回答があることから、周知徹底されていないことが分かるため、今後、「A」が増えるよう工夫して取り組みたい。 									
II 子どもの発達援助	A	29	B	52	C	14	D	2	無回答	4
※ 検討を要する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人ひとりの状況の共通理解及びケース会議の実施が十分でないという評価が多かった。勤務態勢から難しい面であるが、子どもの姿を知ることこそが基本であるため、勤務態勢を含めケース会議をもてる体制づくりを模索していきたい。 ・ 障がいのある子に対する教育・保育については、十分に考慮されていないとの評価が多かった。職員を増員する等できる限り一人ひとりに合った教育・保育を展開できるように努めたい。 									
III 保護者に対する支援	A	32	B	45	C	13	D	3	無回答	7
※ 検討を要する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との交流や地域の福祉に関する評価も低かった。次年度から地域に貢献するための事業も計画し実施していきたい。在園児の教育・保育に支障が無いことを大前提としながら、園児の育ちにプラス効果が出るような活動も取り入れ、地域に開かれた園を目指していきたい。 									
IV 教育・保育を支える組織的基盤	A	33	B	47	C	10	D	1	無回答	9
※ 検討を要する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の研修や人事考課について、外部監査を実施して経営改善をはかる面で評価が低かった。また、無回答も多かったため「組織的基盤」について職員への周知が必要である。 									

* 四捨五入の結果、合計で100を超える場合もある。

◇ 今後の取り組み

4月にスタートした伊達こども園は、園児・保護者・職員全員が何をするにも初めてのことであり、保護者の皆様にも心配をおかけすることも多くありました。私たち自身も日々子どもたちの教育・保育を行う中で話し合いや改善を行い、子どもたちの最善の利益を念頭に取り組みで参りました。保護者の皆様のご協力・ご理解のもと進めてくることができましたが、園内の自己評価においては、低い評価の部分もございました。来年度は、伊達こども園2年目となります。1年間の実績と反省を活かし、更に「子どもの最善の利益」を念頭に、保護者の皆様との連携を深め「教育・保育」を進めていきたいと思っております。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。